

小来川地区内公共施設の再配置の考え方の整理について

2回目(H31年3月14日)・3回目(H31年4月22日)でのグループワークの作業から見てきた意見を整理します。

第2回目会議(H31. 3. 14)・・・グループワーク

【全体テーマ】

「10年後20年後の小来川地区をより良くするためにどうすれば良いか」

>>前半グループワーク：小来川地区の強みと弱み

小来川の 強み (3グループほぼ共通)

- * 「自然」・・・景観、環境の良さ、水がきれい。
- * 「食」・・・美味しいものがたくさんある。
- * 「人柄」・・・人が良い、人情が深い、絆が深い。
- * 「伝統」・・・伝統行事、イベント、祭りを大切にしている。

小来川の“弱み”(3グループほぼ共通)

- * 「少子高齢化」「人口減」・・・若者が戻らない、空き家が多い。
- * 「生活環境」・・・公共交通、インフラ整備(道路)が不便。買い物・病院等が遠く、生活が不便。
- * 「産業」・・・農業・林業の衰退。働く場がない。

>>後半グループワーク

10年後20年後の小来川地区をもっと良くするためにどうすれば良いか

■Aグループ

- 「**施設の整備（空き家、商業施設、公園等）**」・・・空き家等を活用して、外からも来てもらえるようにする。商業施設（お店）を復活する、あるいは、新しいものをよぶなど、来た方も利用出来るような公園等の施設の整備をしていく。
- 「**交通整備（公共の乗り物、道路整備etc）**」・・・施設整備のためには、道路と合わせて、バスやそれに代わる交通網、子供や高齢者の生活（買い物・病院等）のために、交通の整備が重要。
- 「**雇用の創出**」・・・雇用をこの地区内で生み出していかなければならない。近くに職場があることは魅力的なこと。出来れば地域の良い資源を生かした雇用の創出が必要。

■Bグループ

- 「**自然をアピールして人をよぶ**」・・・小来川の食、自然など、たくさんの良いもの、小来川の魅力をネット等（SNS）の周知媒体を活用して、小来川以外に広く発信していく。
- 「**働く場所をつくる**」・・・生活基盤、働く場所を作っていけば、若者も他からも人が来るのではないかという観点で、農業の会社組織化や、空き家バンクに提供し、移住者を受け入れやすい環境を整えるなど。
- 「**インフラを整備する**」・・・自然をアピールして人をよんだり、働く場所をつくるにしても、道路の整備は不可欠。

■Cグループ

- 「**道路を改良して安全に通勤や買い物ができる環境を作る**」・・・他から来る人も小来川に来やすい、不安のない道路を造るのが一番ではないか。
- 「**誰もが気軽に集える場所や機会を作る**」・・・小来川地区内で色々な人の意見を吸い上げる機会とか、伝統行事等もあるが、もっと気軽に集える場所や機会を作る。
- 「**SNSを活用して小来川のPR力の向上を図る**」・・・情報ネットワーク媒体、SNS等を活用し、小来川の新しい力と、地域独自の特産品を作って、それを広くアピールして、皆に来てもらう場所にする。美しい自然をいつまでも残し、小来川住民みんなが誇れるまちにする。

《西尾アドバイザーから・・・》

👑投票数№1：「働く場所を創る」という方策。

人口減少、若者が定住しないことを課題として挙げていたので、そのためには「働く場所が必要」と感じている。

👑投票数№2：「施設の整備」という方策。

空き家、商業施設、公園と色々な要素があったが、施設の整備ということが大事だと感じている。施設の概念の中に、交通とかインフラ、道路とかハードの環境の整備ということも大事だと捉えられている。

👑投票数№3：「SNSを活用して小来川のPRの向上を図る」という方策。

小来川の強みである自然がとにかく良い所というせっかく良いものを、もっと知ってもらおうということが大事だと言うことを皆さん感じている。

📎グループワークを通じて📎

小来川の強みで一番多かった「人」、「繋がり」、「人情」といったものを生かしてまちを良くしていくという観点がもう少し出てきて良い。せっかくの良い資源である「人」を生かしていく。市、行政がやるべきこともあるが、市民、住民がやっていけることも位置付けていくと、より良いまちづくりに繋がる。

第3回目会議(H31. 4. 22)・・・グループワーク

テーマ：「将来の小来川のまちに向けた公共施設のあり方」】

2回目専門部会のグループワークで検討した、10年後20年後小来川をもっと良くするためにこうしたら良いと思った、将来のまちの形。それを実現するために公共施設をどう考えていったら良いかのアイデアを皆さんに出していただいた。

Aグループ

●学校の近くに集約 ●人の集まる施設

- 既存施設については、診療所、小来川支所、デイサービスセンターを一つにするとか。学校と保育園を一つにするとか。一体化して、まとめた方が良い。
- 条件として、多くの人が集まりやすい場所、行きやすい、施設自体はバリアフリーで、使いやすい構造にしてほしい。
- 既存施設の一体化に向けては、学校などと一緒になる場合は、子供がいるところと、一般の人がいるところの機能のすみ分け、構造的な工夫も必要ではないか。
- 小来川の良い所(自然)を生かすということで、外から人が来るような施設ということで、山や川で遊べるような、または、そういう施設を備えた公園そういうものを作ってはどうか。

●他施設の有効活用

- 外から来た方が泊まれるような施設とか、老人が年をとったら住めるような家とかを整備する。道の駅とか、山の駅、直売所等の施設。
- 直売所については、小来川地区内の住民のためのお店を兼ねたもの。
(制度上の話も解決しなければならない)公共コンビニ等。
- 資金については、クラウドファンディングを利用できないか。
重要な道路の整備や、交通機関の整備も必要。
老人対策として独居老人とか老夫婦が住めるような集合住宅、外からも地域内の高齢者も入れるような老人ホームを作ってはどうか

Bグループ

●現在の施設の一体化 ●施設整備する時の条件

●高齢者対策 ●外部・内部の力の商業施設

- 最優先の事項を考えると、複合施設……それだけでは、この小来川がただ高齢化が進んで、子供がいなくなって、過疎化が進んでいくという未来しか想像できない。
- それを打開する策として、人を集めるということで、「温泉を掘る」……人が集まれる場所、他の地域からも人が集まる場所をつくっていくことが小来川の発展していく未来に繋がる。
- そういった場所をつくって、そこでおじいちゃん、おばあちゃんの力を借りて、シルバー人材センターのようなものを利用して、小来川の中で地域の人々が活性化していけるような場所が必要。

●外部の方の施設

- 福寿荘(民間施設)を再開してもらおうとか、道の駅とかなども出来ないか等の話が出た。運動公園等も道の駅等と一緒に、人が集まれる場所を作ることが必要と考えた。

●道路の整備 ●交通機関

Cグループ

●人を集める ●みんなが集える場所 ●求める要素

- サイクリングコース、サバイバルゲーム、ボルダリング、キャンプ場等々の人が集まれる施設を作った方が良い。
- 公共施設については、基本的に複合化。面積だけで言えば、小中学校一つで、支所機能や診療所等の諸々の施設が入ってもスペース的に余裕があるのではないかな。
- 学校と他の機能を区切って分けて行かなければという意見もあったが高齢者と子供が触れ合えるような作り方で利用していけるのが良いのではないかな。
- 複合施設ということで考えれば、お店的なものとか、銀行・郵便局等の機関を含めて一つの施設のなかで、やっていけるのが良い。
- 施設の有効活用ということで、皆が集える場所、道の駅とか、山の駅とか等の施設をつくるというか、既存の施設を利用していかなければならないのではないかな。



●検討課題

- 学校に集約することを前提に、他の施設については、民間に貸し出して、利用していくということで、地元の活動するための資金も確保しなければならないという中で、行政に頼ってもなかなか出来ないところだと思うので、民間の力というところを考える。

《西尾アドバイザーから・・・》

●投票いただいたなかで、一番票を集めたのが「みんなが集える場所」、別グループの「人が集まれる施設」と合わせみんなが集まれる場所が大事だということをみなさん大事にされている。

●全体を見て、感じたのが、一つは中に住んでいる人の為の、小来川地区の皆さんが住みやすいところという観点になった時に、ここが一番重要なキーワードとなって、「人が集まれる、人が集える」というところなのかなと感じました。

●もう一方、中の人だけではなく、外から人を呼び込まなくてはいけないという問題意識が出ているのかなと思いました。次に多かったのが、「外部と内部の方のための商業施設」というところに票が集まっています。

●道の駅をつくるとか、コンビニとかクラウドファンディングとかトレイルランニングとか色々なキーワードが出ていますが、外から人を呼び込んで、中の人との共用という商業のところも大事だという、外と中の両方の視点が見えるのかなと思います。

皆さん共通して出されていて素晴らしいなと思ったのは、将来人口が減って行って、施設も今のまま維持していけないとなると、施設を集約化する、複合化する、これはやっていかざるを得ないということ、指摘されている。非常にそれは重要な観点で素晴らしい。

ただ、単に複合化するだけではだめで、プラスαが大事だと言うことで、人が集える場所とか、外からも人が呼べるというような観点を色々に入れて行くということが大事であるという指摘だったのかなと思います。

>> 施設の集約化の考え方のなかで・・・

2つの観点があって、両方大事だと思いますが、

①学校の中の安全性という観点では、子供とそれ以外の利用者が分けられるという視点も大事だと思いますし、②せっかく子供も高齢者の方も使うのであれば、交流を促進するという、そちらの視点も大事だと思います。



いかに安全性を確保しつつ、交流を深めていく工夫をしていくかというところが、この学校を中心とした複合化を考えていく時の一つのポイントになっていく

個人的に良いなと思ったのが、給食室を使えるようにしてもらえると、色々な使 い方ができて良いというアイデアですとか、学校のなかに保育園異動した方が良いとか、女性の視点とか、女性の方がこういう公共施設を普段よく使われていると思うので、女性の皆さんのまさに使っている方の視点での工夫と言うのが入ってくると、凄くいいなと思いました。そういったアイデアがいつか実現できると良いと思いました。

前回の話し合いのなかで、皆さん小来川の良いところをいかに生かして行って、10年後20年後、今回は公共施設の観点からまとめていただいて、非常に良い意見が集まったなと思っています。

【小来川地域公共施設配置位置図】



>> 過去3回の会議の検討内容を踏まえた

小来川地区の将来(未来)のまちづくりの展開<<

I. ハコモノ(ハード面)の考え方の方向性

⇒ 公共施設機能は集約する(施設の集約化・複合化)

2パターン(案)

ポイント 学校機能

・既存公共施設を集約するという考え方で、具体的に検討するにあたっては、いずれのパターンにおいても、学校機能を地区内に残すのかというところを考える必要があります。

・将来的な状況も含めて、学校機能のあり方を考えなければ、施設の集約方法、既存施設の活用の仕方にも大きく影響してきます。

II. ソフト面の対応で実現可能なこと

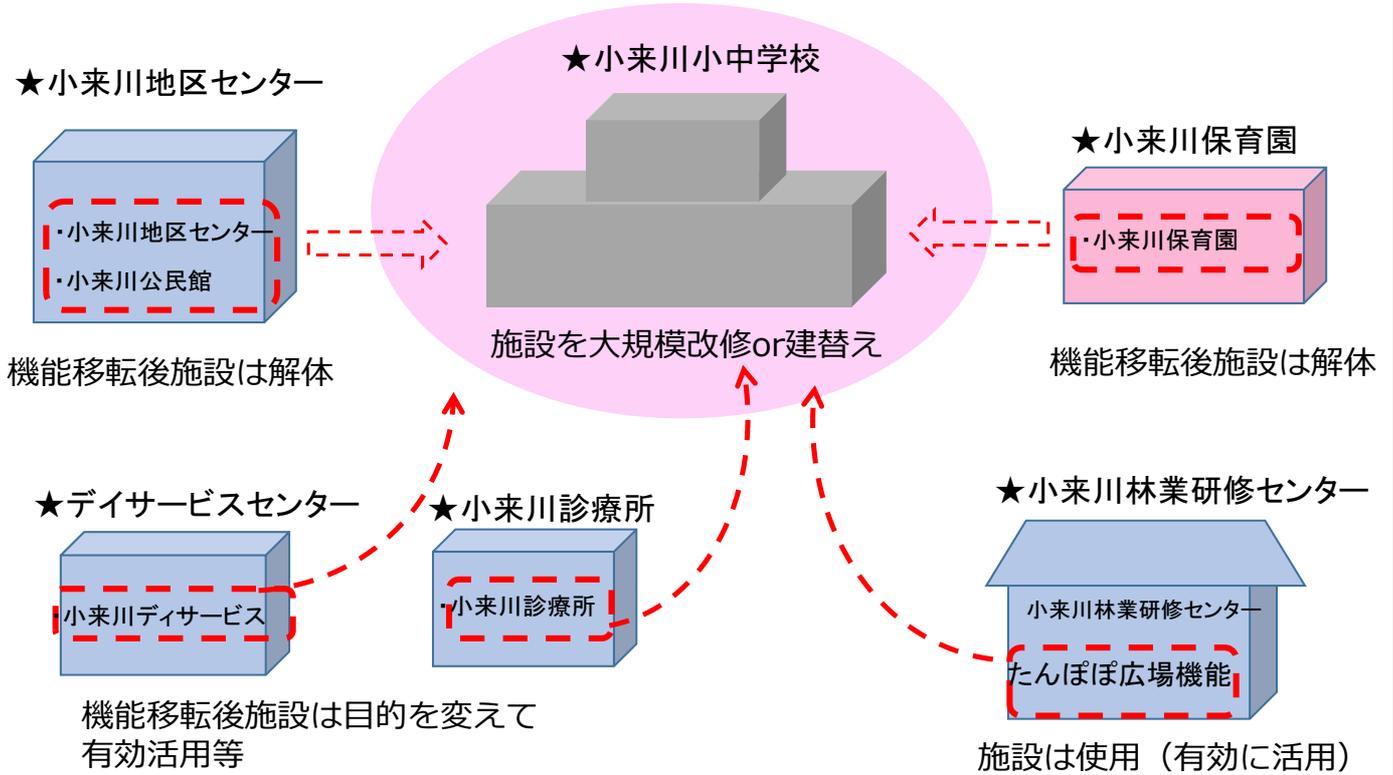
⇒ ハード面の整備は財政的なハードルがある。

ハード面では困難なことをソフト面の対応で解決できること。

ハコモノの考え方の方向性としては、公共施設機能は集約化（施設複合化）

パターン1 全ての公共サービス機能を1つに集約化

《小来川小中学校を拠点として》



パターン2 公共サービス機能を複数施設拠点で集約化

※建物内の機能を分けて施設再編

